

南小たば風通信 2019

令和元年11月19日 第23号

北海道国語教育研究大会 札幌大会に参加しました

10月11日に札幌市で行われた北海道国語教育研究大会に参加してきました。小学校の授業会場は中央小学校、二条小学校、資生館小学校の3校で行われていましたが、齋藤は中央小学校の【読むこと】の第7分科会に参加しました。報告が遅くなり、すみません。

大会研究主題

言語活動を通して言葉への自覚を高め、言葉の力が身に付く国語科授業の創造

【小学校実践課題】

『効果的に位置付く言語活動』を通して、言葉の確かさ、豊かさを実感し、
実生活に生きる力が身に付く授業

【友だちと一緒に学び合う、新たな読書の楽しみ方（4年生）】

・単元名 読んで感じたことを話し合おう「ごんぎつね」

物語全体を通して「効果的な言語活動」として「視覚化する言語活動」に取り組んでいました。今回は読書会に向けて物語を読み進めるために、ごんの行動や足取りを書いた物語マップ（一人ひとり違う物）を作成し、内容全体の流れの把握をしたり、登場人物の思いを書き込んだりしていました。本時はごんの兵十に対する思いを明らかにする時間の3時間目でしたが、そこで「ごんの思いが一番強く表れているのはどこだろう。」という発問をすることで、考えをより深められるようにしていました。場面を追って読み進め、マップにまとめることでごんが兵十に対して最初は思いつきで償ったけれど、足取りの数が増えることが目に見え、だんだんきちんと償わなければならないと思うようになっていった気持ちの変化を捉えることができていました。マップは一人ひとり絵のベースは同じでしたが、書き込むことが違うため、見た目では理解の差があるように見えていましたが、発言にはきちんと理解していることが表れていました。

事後研では、マップを使うことでごんの行動のイメージがはっきりするけれど、思いの変化に注目させるなら、マップともうひとつ何かを使うなど、もう工夫必要だったのではないかという意見が出ていました。また、ごんの思いに注目させるために「脳内メーカー」のようなもので、頭の中を表現するという方法があったのではないかという意見も出ていました。マップは視覚化できて物語の全体を把握するために有効だと思いましたが、思いの変化に注目させるためには、メーターや心情曲線を使うことも有効であることを知りました。

また、ペア交流についての話も出ました。子どもたちが交流したくなるのは、伝えたい気持ちがたくさんあるときや、自分の考えがまだモヤモヤしているとき、助けてほしいときなどです。交流したことで考えや意見がはっきりすることで、次にまた交流したいと思えるように、交流の場面を設けるときには必要感をもたせること、そして交流することの焦点化が大切であるということでした。

